

日本仏教社会福祉学会 ニュースレター

No 21

■平成26年6月14日

■発行・編集 日本仏教社会福祉学会 事務局

CONTENTS

- ・平成26年度 日本仏教社会福祉学会新代表理事就任挨拶
- ・平成26年度 日本仏教社会福祉学会 第1回理事・役員会報告
- ・日本仏教社会福祉学会 第49回大会・総会のご案内
- ・学会連合会 総会報告
- ・新刊『仏教社会福祉 入門』発刊のお知らせ
- ・会員の皆様へお知らせ
- ・事務局 編集後記

日本仏教社会福祉学会

発行日：平成26年6月14日
 発行：日本仏教社会福祉学会事務局
 〒354-8510
 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
 淑徳大学埼玉キャンパス
 社会福祉実習室内
 TEL：049-274-1511（代）
 FAX：049-274-1521

ご挨拶

代表理事・長谷川匡俊

このたび、大正大学の石川到覚先生より代表理事を受け継ぎました大乘淑徳学園の長谷川匡俊でございます。会員の皆様には、平素より本学会の事業にご協力をいただきありがとうございます。この間、石川代表理事の下では、東日本大震災対応プロジェクトを立ち上げ、全日本仏教会との連携協力による調査研究を着実に進めてこられました。また待望久しい『仏教社会福祉 入門編』が去る3月に法蔵館から刊行されました。本学会の一つの到達点を示すものでもありましょう。

さて、新年度を迎え、4月26日、本年度第一回理事・役員会が開催され、新たな役員・事務局体制が発足いたしました。今期3カ年の最終年度（平成28年度）には本学会設立50周年を迎えることとなります。したがって、今期における事業計画の眼目を50周年記念事業と定め、併せて、さらなる学会活動の活性化に向けた取り組みにも力を注いでまいります。会員各位におかれては、これら事業や活動に積極的に参加・協力していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。以下、代表理事の就任にあたり所感の一端を申し述べて、ご挨拶とさせていただきます。

- 1) 50周年記念事業として、この間項目に挙げられてきたもののうちから内容を整理し、早期に会員にわかりやすい形で提



示し協力を得たい。

2) 研究活動の活性化、若手研究者・実践者等の発掘育成、広く仏教社会福祉への関心を喚起する等の一環として、『仏教社会福祉 入門編』を活用した小グループによる研究会・勉強会の

開催。仏教系福祉実践現場への研修プログラムの提案・研修会の開催

- 3) 本学会における研究活動のフィールドは主に国内であったが、東アジアや東南アジアの仏教圏等への広がりを目指し、交流を促進し、将来の比較研究にも途を開いていきたい。
- 4) 会員数（個人・団体）は毎年新規入会者がいる反面、退会もしくは会費未納者もあり、漸減状況で推移している。その理由・原因を見極めたうえで、会員増加策を検討実施する。
- 5) 会務の執行、事業の推進等の実効性を担保するため、理事・役員を担当制と責任体制を明確化し、スケジュール管理を事務局で行う。

平成26年度 日本仏教社会福祉学会 第1回理事・役員会報告

日時：平成26年4月26日（土）15：00～17：55
場所：淑徳大学 池袋サテライトキャンパス

出席 代表理事 長谷川匡俊
個人理事 石川到覚 清水海隆 田宮仁
宮城洋一郎 藤森雄介 谷山洋三
小笠原慶彰 村井龍治
団体理事 渋谷哲 長上深雪 三友量順
小島恵昭 落合崇志
監事 梅原基雄
名誉会員 中垣昌美
刊行担当 清水 教恵
前事務局長 鷺見宗信
前事務局員 菊池結
事務局 藤田則貴 宗像実咲
欠席
個人理事 田代俊孝 池上要靖 徳岡博巳
林俊光
監事 山口幸照
事務局 渡邊義昭

開会 事務局長より開会を宣言。

前代表理事挨拶

この理事会は、私の名で招集させていただきましたが、本日は、長谷川先生の下で理事会を開催されますことを喜ばしく思います。2年間の在任期間は、先生方のご尽力もあり、無事に事務局の仕事とともに大正大学での対応ができましたことに御礼を申し上げたいと思います。この間、震災以降の対応に関しまして、仏教系の団体と連絡をとりあい、藤森先生を始め、若手の先生方が相当な努力をされたこともあり、情報収集できましたことにも併せて御礼を申し上げたいと思います。また、報告事項の中にもございますが、『仏教社会福祉 入門編』に関しまして中垣先生が中心となられ、また、刊行に関しましてもご尽力いただきました清水先生にも併せて感謝申し上げますとともに、年度末に刊行となりましたことをご報告致します。今回、この学会に長年ご貢献いただきました水谷先生、星野先生、林先生のご冥福をお祈り申し上げ、併せて御礼の言葉を述べたいと思います。ありがとうございました。

代表理事挨拶

皆様、こんにちは。只今、前代表理事の石川先生から、この間の学会の動き等についてお話がございました。石川代表理事の下に、

大正大学の事務局を担っていただきました方々のご努力によってこの間の運営が円滑に、かつ充実した運営ができましたことを受けて、手前どもの淑徳大学の者が、事務局を担わせていただくこととなりました。今日、お集まりの理事監事、役員の方、また、名誉会員の中垣先生にもお忙しい中、ご出席いただいております。今回の役員会を始めとして、役員体制の最も大きな課題は、50周年に向けて何をどう進めて、この学会の再活性化を果たしていくのかということだと思います。具体的には、この後の議題の中で、色々のご意見をお出しいただいて詰めていくことができたかと思っております。手狭な窮屈な部屋でご面倒をおかけ致しますが、しばらくの間、ご勘弁いただきまして26年度の第1回理事・役員会を開催致します。どうぞ宜しくお願い致します。なお、後程、「会員の異動について」の議題の中でとも思いましたが、冒頭で先程お話のありました水谷先生、星野先生、林先生の追悼の黙祷を捧げたいと思います。

黙祷。

お直りください。

1. 定員数の確認

事務局報告

本学会規定により出席理事14名、委任状2名の過半数で理事会は、成立する。

2. 議事

本学会規定により長谷川代表理事が議長となり、次のように審議された。

第1号議案：会員の移動について

前事務局報告により、次の①新入会員3名、②退会会員6名について、審査の結果、承認された。

①入会会員の承認（順不同）

個人会員入会 1. 安藤徳明 2. 秋元樹
3. 稲場圭信

②退会会員（順不同）

個人会員退会 1. 小辻寿則 2. 謝瓊慧
3. 池田和彦 4. 水谷幸正 5. 星野貞一郎 6. 林信明

したがって、平成26年4月25日現在、個人会員は、203名、団体会員24団体、計227会員となった。

また、会費未納会員について（3年以上の

会費未納)には、淑徳大学事務局で再度確認をするため、もう半期預からせていただきたい。退会勧告等は、本年度の第2回理事会で決定することとなった。

第2号議案：平成25年度収支決算(案) について

前事務局より決算(案)の説明後、梅原基雄監事より監査の報告がなされた。前年度監事の池上先生が本日、体調不良でご欠席のため、後日確認サインをいただき、秋の総会には、両先生の確認サインをいただいたものを添付する旨報告された。

審議の結果、平成25年度決算について承認された。

第3号議案：理事・役員会の体制について 議長

改選後の次期代表理事の考えを述べさせていただき、ご了解いただきました基本的な考えに基づいて、本日提出できるように事務局と調整をしながらこれから説明を行う。

原則として、全ての理事・役員は何らかの役割を担って学会運営を行っていく事を通じて一般会員にも積極的な参加を促し、本学会の更なる「活性化」を進めていきたいと考えている。具体的な事業の中では、2年後の50周年記念事業があるが、次期が限られているものに関しては、待ったなしで行っていく。かなり体制を固めて着々と準備を整えていきたい。石川前代表理事の考えを土台にしながら少し練り直させていただいた。

事務局長

最初にお詫びさせていただきたいが、限られた時間で新体制のことを詰めたので、事前のご相談なしで案を作らせていただいた。

代表理事には、3年間長谷川先生にお願いしたい。庶務担当理事は、事務局長兼務という形で預からせていただきたい。併せて事務局員として、3年間同じ体制で行きたいが、まず、26年度については、渡邊会員、藤田会員、宗像さん(学部4年生)の3名体制で考えている。

50周年記念事業担当理事は、第51回大会と兼務となる形だが、「50周年記念事業」は、研究担当理事として清水海隆会員と村井龍治会員に担っていただいていたが、期日も迫っているため、本年度より研究担当理事の職務と切り離し、より具体的な準備が行える体制にしたい。清水先生のご提示いただいた案と事前のすり合わせをしていないので、ご了解

いただきたい。この後、清水先生からもご意見をいただきたい。

具体的な案は、以下の通り。

・清水海隆会員(全体統括)、村井龍治会員(関係者聞き取り担当)、宮城洋一郎会員(記念誌担当)、池上要靖会員(文献目録担当)、三友量順会員(記念式典担当)、関東から梅原基雄会員、落合崇志会員、関西から林俊光会員、徳岡博巳会員の先生方にもご協力をいただきたい。

年報担当理事には、小笠原慶彰会員(編集委員会委員長)、編集委員には、大久保秀子会員、藤森雄介会員を考えているが、他2名の編集委員については、打診も含め検討中。

第49回大会担当理事には、小島恵昭会員と田代俊孝会員にお願いしたい。

第50回大会担当理事には、田宮仁会員と渋谷哲会員にお願いしたい。

今までと違う形で研究担当理事の位置付けをお願いしたい。昨年度までは、研究担当理事が、50周年記念事業担当理事を兼務していたが、今年度は、切り離して考えていただきたい。研究を担っていただく理事の先生方には、特に「学会活性化」に繋がるような研究プロジェクトを率いていただければと考えている。

また、具体的には、第2回理事・役員会までに「東日本大震災対応プロジェクト委員会」のようなプロジェクトを、一般会員も巻き込む形で立ち上げていただき、その成果を学会等で報告、年報へ投稿していただく等の研究活動を通じて、本学会の活性化を進めていきたい。

研究担当理事：石川到覚会員(全体統括)、長上深雪会員、山口幸照会員、谷山洋三会員

東日本大震災対応プロジェクト委員会については、今年度も継続して行っていく。

藤森雄介会員、渡邊義昭会員。

併せて東日本大震災対応プロジェクト委員会から説明があり、東日本大震災対応プロジェクト委員会の提出した報告書のような共通のフォーマットで今後報告していただくと有り難い旨報告された。

議長

平成26年度理事・役員会の体制について(案)の所に一通り理事役員の方の先生方のお名前を挙げさせていただいている。

前年度の事業・活動報告と新年度の活動計画・目標を明確にしておく必要がある。よって、報告書や計画を出していただいた方が良いのではないかと考え、ご提案させていただいて

いる。

また、東日本大震災対応プロジェクト委員会の提出した報告書のような共通のフォーマットで今後報告していただくと有り難い。清水先生から50周年記念事業についての再構築案が示されている。

清水理事

報告にもあったように、最初に綺麗にこのような形で役割分担をしていただくと非常に有り難い。報告のフォーマットについては、相談が必要。

石川理事

研究のところで相当なところ入れをしなければならぬと考えている。研究担当理事の中で、研究テーマに則して組織を再編しても良いのではないかと考えている。藤森先生がこの3年間精力的にやられてきた研究を、研究という大きな枠の中で震災プロジェクトという位置付けになるのか、或いは、独自でいくのかによって整理の仕方が違うのではないかと。2点目は、淑徳大学で進められているベトナムとの事業で、田宮先生がリーダーとなって仏教福祉の実践を整理されている。その中で、アジアの仏教ソーシャルワークどうやって構築したらよいかというのを既に進めているので、学会もそれに便乗してはどうか。3点目は、龍谷大学で行われた研究の成果も学会にも提供していただくと有り難い。テーマで動く方が良いのではないかと。

議長

1点目につきましては、東日本大震災対応プロジェクトの一環として捉えて良いのではないかと。2点目につきましては、日本仏教社会福祉学会の研究活動と関わりの深いと思われる事業や活動をしているのであれば、リンクさせる形で研究活動の活性化に充ててはという事だと思う。3点目の龍谷大学で行われた研究の成果のことにも繋がるかもしれないが、テーマを立ててそのテーマの基に研究を進めていく方が、より活性化に繋がるのではないかとご提案だったと思う。この場では、なかなか出にくいということもあるので、石川先生に切り盛りしていただければと思う。

石川理事

役員の方々にもリーダーシップをとっていただくと有り難い。

議長

石川先生からの投げかけもあったので、ぜひ役員の方々にもリーダーシップをとっていただくと有り難い。いずれそれが、年報に

もはね返ってくる事だと思う。また、成果が学会誌で反映されることにも繋がる。

宮城理事

清水先生の再構築案と事務局から出された案と違いがみられる。

事務局長

若干のズレはあるが、方向性は一緒だと考えている。事務局の役員体制を聞いていただいた上で、この後の50周年記念事業についてというところで、口頭で再々修正案を示すことができたかと考えている。

清水理事

報告事項のところで、示させていただくが、いずれにしても今理事会で事業内容を確定しなければならぬと思う。

議長

先程のフォーマットについては、個別にご意見等うかがって事務局で調整をさせていただく。報告や計画を記録として残していく。それぞれの担当チーム全体が進めていってほしい。

以上を踏まえ、第3号議案の理事・役員会の体制について承認された。

第4号議案：平成26年度 第49回大会 (同朋大学) について

同朋大学で開催される第49回大会について、小島恵昭会員より、企画案が説明された。

小島理事

開催時期が、9月から10月へと変更された。「仏教福祉と災害支援」というテーマを設けた。当初、候補に挙げていたシンポジストとの都合が合わなかったため、そのシンポジストの紹介により、資料に示すメンバーを考えた。

落合理事

今までの2回、「災害支援と仏教社会福祉」というテーマで取り組んできたが、「仏教福祉と災害支援」というものとの違いを一般の人達にも明確に理解できるようにしないと。また、そのようなことを受けると「仏教社会福祉と災害支援」という形にテーマを戻していただき、副題を付けていただくとこの間の学会としてのスタンスも位置付けられる。

議長

特段、問題がなければ、第47回、第48回からのテーマを受けた形で、仏教福祉というのではなく、「仏教社会福祉」に戻していただくことでいかがか。

小島理事

この間2回のテーマの「災害支援と仏教社会福祉」という形に戻させていただいて、サブタイトルを別に考えたいと考えている。

小笠原理事

シンポジウムの中で、歴史的な視点などをその場で終わってしまっていて、じっくり検証するようなことがなかったので、何か学ぶことがあったと思うので、シンポジストでなくてもよいので、補足的な説明をされた方がよいのではないかと。

議長

シンポジウムの中で、災害支援の歴史的な研究の成果の提案等もあつたら良いのではないかと思う。さまざまなご意見があつたと思いますので、ここで取りまとめるのは難しいと思う。したがって、同朋大学の小島先生と事務局で連携をとらせていただきながら、また、相談をしながら固めていく方向でどうか。

ここでは、テーマについては、第47回、第48回のもを踏襲して、副題のところ工夫していく。シンポジストにつきましても、その副題と関わるような形で、どのような方をお願いするのかということでご相談させていただく。

**第5号議案：平成27年度 第50回大会
(淑徳大学) について**
事務局長

国際交流のことを考えている関係上、少し早めに大卒のところを理事の先生方にご了解いただき、準備をさせていただきたいと考え、議案とさせていただいた。

淑徳大学では、平成27年度に大学創立50周年を迎えるにあたって各種の記念事業を準備している。その一環として、東南アジア地域を念頭に置いた仏教と福祉に関連した国際フォーラムの開催を検討してきた。

この度、同年に第50回大会を担当させていただくにあたって、ぜひ大会テーマも「第2回アジア仏教社会福祉学術交流大会（仮称）」として、淑徳大学が準備を進める「国際フォーラム」と連動（共催または後援）した大会開催をさせていただければと考えている。

了解が得られれば、秋の第2回理事・役員会の際には、具体的な日程やお呼びする先生などのリストも添付できたらと考えている。

田宮理事

具体的な日程は、1日追加して、金曜日に「国際フォーラム」を開催し、そこでお招きした先生方を大会のシンポジウム等でも関わっ

ていただくということを考えている。

議長

現段階では、中身の詳細までには至らないが、このような方向で進めることにつきまして、理事・役員の方の先生方のご意見をいただければと考えている。

石川理事

ぜひ、進めていただければと考えている。第1回のアジア仏教社会福祉学術交流大会の際には、三友先生とご一緒させていただいた。随分寄付金を仏教教団から頂戴した。海外からお招きするにはお金がかかる。この際に研究プロジェクトを立ち上げて継続的に進めることができたらなお良いと思う。第6号議案にも関わるが、「アジア仏教社会福祉学術交流基金研究・公開助成」を使用した方が良いと思う。

清水理事

私も、ぜひ進めていただきたいと考えている。翌年50周年大会、51回大会となるので、この2年間で焦点化していくという意味において「国際フォーラム」と連動して「第2回アジア仏教社会福祉学術交流大会（仮称）」をぜひ進めていただきたい。

谷山理事

日程や内容を早く決定し、宣伝も早く広くしていただければ、学会の宣伝にもなる。次回の理事・役員会には通せる形にして、ぜひしていただきたい。

議長

方向性につきましては、これで良いということになったので、今、理事の先生方からいただいたご意見を基にしながら、準備を早め早めに進められるようにしたい。

なお、実はこの4月から長谷川仏教文化研究所に置いており、また、近い将来、社会福祉研究所に移す予定ではある、「アジア仏教社会福祉学術交流センター」をスタートさせた。

そのセンター長に先程、入会のご承認をいただいた秋元樹先生に就任いただくこととなった。色々な先生方のご意見をいただきながらこの大会の成功と引き続き地道にセンターでの活動を進めていきたい。是非、お力添えをいただきたいと考えている。

第6号議案：アジア仏教社会福祉学術交流基金研究・公開助成について

事務局より主旨の説明がなされた。現在も例年通り募集を行っている。他の募集がなければ、先程、石川先生からご提案もあつたの

で、「第2回アジア仏教社会福祉学術交流大会（仮称）」で、この基金を活用できるか他の資料も見ながら事務局で検討していきたい。その旨、審議の後、承認された。

3. 報告事項

① 学会賞について

事務局より各理事に該当者がいる場合、事務局まで連絡するように確認された。また、ニューズレターでも案内を行う。

② 50周年記念事業について

清水理事

清水理事より報告がなされた。再構築案を作ってきた。先程、事務局から出された（案）と1点相違がみられる。それは、50周年記念誌の話。藤森先生から回された「キリスト教学会の50周年誌」というイメージだが、こちらで前にお話したのは、記念論文集を出すという話をした。後は、同様である。

1点、記念事業の内容の（1）50周年記念誌の刊行（記念研究論文集）をやるかやらないかの再確認をいただきたい。

議長

記念研究論文集をやるかやらないかというご提案があった。それも含め、50周年記念事業に関し、何か意見はないか。

小笠原理事

出すか出さないかということから、お聞きしたいが、査読が必要になると思うが、何本くらいを想定しているか。また、年報は年報で出し、論文は、論文として出し、さらに査読をすのであれば、体力的に心配である。分野にもよるのかもしれない。

清水理事

学会員が約200人だとし、全員が出すとは限らない。査読委員会ではなく、論文集刊行委員会が全部やるとなると、現実に査読委員会からお願いされている先生方は、本日も出席の先生方全員入っている。査読委員会でやろうが、論文集刊行委員会でやろうが、現実的には、一緒。形式的には、査読委員会でやる事しておきたい。

石川理事

50周年記念誌を学会として出すのであれば、枠組みをきちんと出す必要があるのではないか。また、（2）50年史および関係者聞き取りに焦点化し、充実させた方が良いのではないか。

議長

現段階で、石川先生も言われたように学会の総力をあげて福祉のコンセプトの基にそれなりの体系的なものを出すというのは、少々

難しいのではないか。具体的には、小笠原編集長の下で、50周年記念特集のような形で、できる限り会員の方々に論文をお寄せいただいて、それを見ながら編集していただくのが良いのではないか。

清水理事

そうすると、淑徳大学でやられる「第2回アジア仏教社会福祉学術交流大会（仮称）」の記事も含めたものが載る号が「50周年記念号」となる。

村井理事

聞き取り担当の理事となっている。草創期の聞き取りを行っているが、なかなか困難な状況である。アジア仏教社会福祉学術交流大会や『仏教社会福祉 入門編』などに関わった先生方に対して、その中でのことを焦点化し、まとめていくというようなことを出していないと難しいのではないかと考えている。

議長

宮城先生が行っている記念誌のとりまとめの中で、記録に残っている流れの中で、出来たところで、また、洗い出しを行い、宮城先生のところとタイアップしながら進めて行けると良いのではないか。

清水理事

本日、ご欠席はされているが、池上先生から長上先生にご協力をいただきたい旨の伝言を預かっている。

③ 震災対応プロジェクトについて

事務局長

この件は、先程の議案の中でご報告させていただいたので、割愛する。

石川理事

出版は、どうなっているのか。

藤森理事

出版は、白紙状態である。

石川理事

出版できる状態かどうかをどこかで確認する必要がある。次回の理事会で示していただかないとせっかくの新しいデータが使いえなくなってしまうという心配がある。

藤森理事

次回までには、アンケートの集計という形で体裁も整えたい。

④ 次号年報編集について

小笠原理事

確認だが、第49回大会（同朋大学）の成果が、年報でいうと第46号、50回大会（淑徳大学）での成果が第47号となる。理事・役員の方々に活発に発表をしていただかないと困る。第44号、第45号共々前編集委員長のもと

でやっていくということだったが、退職なされたので、私が担当していくが、合併号となる。

また、編集委員の体制で、関西の方でしかも若手で1～2名欲しい。編集委員を早急に決めないといけない。その人選もお任せいただきたいが、どなたか適任者をお願いしたい。大変助かる。

議長

どなたか、適任者がいれば、打診してほしい。

⑤ 『仏教社会福祉 入門編』について

議長

報告事項の最後になるが、学会の存在を内外に示す『仏教社会福祉 入門編』が多くの先生方のご協力のもと、刊行することができた。

清水先生

3月末に『仏教社会福祉 入門編』が刊行された。歴代の理事の先生方に「私の任期中の刊行を」という話があったが、色々な事情があり、今回の刊行となった。学会の先生方の寛大なご配慮があった。厚く御礼を申し上げる。

議長

ぜひ、この『仏教社会福祉 入門編』を授業等で活用していただきたい。また、研究担当の方で、研究会的な活動も含め、例えば、院生や学部 of 学生も含めて、これをネタにしながら意見交換をするようなそういう機会や執筆していただいた方をゲストに迎えるなど、色々なやり方はあると思う。何かそういう活用をしていただきたい。広く関心を喚起していただきたい。東西で研究会的な動きが出るとすばらしいと思う。

石川理事

『事典と入門』とセットにしながら進めていくのが良いが、もう1つ素材があると良いのかと思う。大正大学の大学院で講座を持っているので、仏教系の関東のところで何人かでやるなど、始められたらと考えている。

清水理事

初版は、何部か。

清水先生

2500部である。

その他

事務局長

具体的なものは、ニューズレターでお知らせするが、一般会員の方々も巻き込んで研究を進める意味で、所属している会員の皆さんの主な研究テーマなど、個人情報に抵触しない

範囲内でお聞きし、先生方にお出しする場も設けていきたい。研究プロジェクトや委員会にも役立てていきたい。入会申し込みは、個人情報に当たりますので回収をするので、ご協力をいただきたい。

石川理事

学会のホームページの件で、学会連合が契約している業者が変更したこともあり、動かない状況になっている。ホームページの調整をお願いしたい。

事務局長

しばらく前から見るできない状況になっている。早急に解決したいと考えている。

中垣名誉会員

収支決算書に記載されている支出の部の中に、ホームページ維持費があるが、予算額に対して決算額が約三分の一となっているが、どうしてか。

前事務局

予定されていた更新回数が少ないために、そのようになっている。

中垣名誉会員

東日本大震災対応プロジェクトで行った調査を踏まえた研究課題で、科学研究費補助金基盤研究(C)にエントリーしたが、不採択だったとのことだが。

藤森理事

11月にエントリーし、4月の結果が不採択であった。これが、第1回目である。今年度の11月に再度チャレンジしようと準備を進めている。

中垣名誉会員

科学研究費の委員を何年かやった経験がある。文部科学省から社会学会に4名、社会福祉学会に3名の委員選出があった。1回での採用は、非常に少ない。3回まで出せば、その真摯な態度が見受けられる等の理由で採用になるのではないか。

分野の変更もあり、基礎研究から基盤研究へ、実践研究、応用研究分野というように、研究論題を細かく審議されるようになってきている。例えば、テーマの中で「日本仏教」という文言があるが、それを具体的に表現することがないと難しい。実証的研究の中には、必ず仮説設定がはっきりしないといけない。

「東日本大震災における社会福祉的支援に関する日本仏教界の成果と課題」という題で、第2回目を出したらどうか。また、研究分野の変更も必要。そうすれば、3回で絶対に通るのではないか。

議長

中垣先生には、名誉会員として理事会などには、遠方にも関わらずお越しいただいている。

また、アドバイスをいただきましたことを活かして参りたいと考えている。

以上をもって平成26年度第1回理事・役員会を終了する。
(文責：事務局)



日本仏教社会福祉学会 第49回大会・総会のご案内

日程 平成26年10月11日（土）～12日（日）

会場 同朋大学

名古屋市中村区稲葉地町7-1

詳細は、大会開催校である同朋大学より、会員各位に案内が届きます。

また、本大会において、1日目午後本学会の年次総会が開催されます。

※今年度の大会は、例年行われている9月ではなく、10月の開催となりますので、日程等ご確認ください。

学会連合会 総会報告

平成26年5月25日、東洋大学白山キャンパスにおいて本学会加盟の日本社会福祉系学会連合会の2014年度総会が開催されました。

総会では、2014年度事業計画が出され、事務局の移転と事務委託が示され、(株)国際文献社への事務全面委託および事務局の移転が示されました。それに伴い、HPの充実も示され、「災害福祉研究アーカイブ」の継続

が確認されました。

また、学会連合の活動内容を広く会員に周知する目的で、電子版ニュースレターの発行も年2回発行することも確認されました。

今年度は、災害福祉学の構築に向けて、東洋大学福祉社会研究開発センターとの共催により、研究者を招聘してシンポジウムを開催することが報告されました。

詳細は、以下に示す通りです。

日時：2014年9月20日（土）12：30～15：00

場所：東洋大学125周年記念館（8号館）

7階125周年ホール

なお、事務局委託先変更の関係で、ホームページが閲覧できない状況になっております。会員の皆様には、ご不便をおかけ致しますが今しばらくお待ちください。

『仏教社会福祉入門』発刊のお知らせ

仏教社会福祉は、現代の社会問題にどう応えるのか。また、仏教社会福祉は、現代の原理と歴史、担い手と実践の視点で語る初めての入門書である『仏教社会福祉入門』が

2014年3月31日に法蔵館より発刊されました。定価：1,800円（税別）です。

会員の皆様による本書の積極的な活用をよろしくお願い致します。



会員の皆様へお知らせ

1. 住所変更に関するお願い

ご所属・ご住所などの変更があった方は、事務局までご連絡下さい。事務局からの発送物がメール便のため、住所の変更がありますと届かない場合もあります。

お手数ですが住所変更などの手続きは遺漏なくお願いいたします。

2. 学会費納入のお願い

平成26年度分の学会費及び過年度の学会費が未納の会員の方におきましては、納入の振込用紙を同封させていただいております。会則第8条において「会費を3年以上にわたって滞納した者は、理事会において退会したものとみなすことがある。」と規定されておりますのでご留意下さい。詳しくは、同封の「会費納入のお願い」をご覧ください。ご不明な点がございましたら、事務局までご連絡ください。

事務局 編集後記

本年度より本会事務局が大正大学から淑徳大学へと変更になりました。

驚見前事務局長をはじめ、大正大学の皆様には、3年間大変お世話になりました。

新事務局は、淑徳大学埼玉キャンパス社会福祉実習室内に設置されています。

事務を引き受けるに当たり、色々と会員の皆様方にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、3年間何卒よろしくお願い致します。

事務局長 藤森雄介

事務局員 渡邊義昭

藤田則貴

宗像実咲

〒354-8510

埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1

TEL : 049-274-1511 (代表)

FAX : 049-274-1521

E-Mail : fujita@ccb.shukutoku.ac.jp

淑徳大学 埼玉キャンパス

社会福祉実習指導室 担当：藤田